

大糸線利用促進輸送強化期成同盟会
第8回振興部会 会議録（要旨）

日 時	令和7年3月13日（木） 午後2時から（終了：午後3時20分）
場 所	フレンド・プラザ大町 2階会議室（オンライン併用）
出 席 者	部会員 19名／28名、 JR西日本金沢支社 2名（オブザーバー）、 事務局
会 議 内 容 〔資料〕	▶ 次第／委員名簿 ▶ 協議事項 （1）令和6年度「大糸線の利用促進・利便性向上策」の取組状況報告について ・各団体等の取組（年間スケジュール／目標値） ---- 〔資料1〕 ・大糸線プロモーション事業（同盟会事業） ----- 〔資料2〕 ・大糸線バス増便事業（活性化協議会事業） ----- 〔資料3〕 （2）令和7年度「利用促進・利便性向上策」の取組みについて ・大糸線プロモーション事業（同盟会事業） ----- 〔資料4〕 ・大糸線バス増便事業（活性化協議会事業） ----- 〔資料5〕

■部会長あいさつ（糸魚川市 内山部会長）

第7回振興部会では、利用促進等に関する中間報告と次年度の取組みについて提案しご審議いただいた。本日は、事業年度の完了前ではあるが2月末時点での目標値に対する達成状況及び事業の振り返りを踏まえ、新年度事業についてご審議いただく。

来月には大阪・関西万博が開会し、インバウンドの方を含め大勢のお客様が来る。こうしたお客様も大糸線沿線エリアへの誘客に繋がられるよう、闊達なご意見をいただきたい。

■協議事項（進行：内山部会長）

（1）令和6年度「利用促進・利便性向上策」の取組状況報告について

○各団体等の取組（年間スケジュール／目標値）〔説明：事務局（糸魚川市）〕 … 〔資料1〕

- ・これまでの振興部会において、沿線一体となり事業を実施し効果的な誘客促進を図るとの方向性と、団体ごと目標値を設定し事業展開・検証をしていくことについて確認がされている。
- ・事業による大糸線の利用者数は、目標値 60,295 人に対し、実績 49,815 人。目標達成率は 82.6%。内容は2月末時点であるため、最終値は別途皆様に照会の上ご報告をさせていただく。
- ・事業効果については検証し、効果が高い事業はさらに磨きをかけ着実に取組みを進め、効果が低い事業についても見直しをしていく必要がある。
- ・新年度についても各団体の取組事業に関する照会をさせていただく予定。

▶ JR西金沢支社の取組みについて〔説明：JR西金沢支社〕

- ・当社の取組みは資料1に記載のとおり、観光型Ma a S「t a b i w a」の商品とパッケージとして発売した旅行商品のご利用があり、特に t a b i w a については類似商品と比較しても大変好評であったと受け止めている。
- ・PRやプロモーションは、首都圏や京阪神、新幹線駅や主要駅で大々的に取組み、ご当地への送客や各種取組みの後押しに繋がったのではと考えている。

部会長：増便バスは冬場に入りインバウンドのお客様が相当乗り、目標値を迫り上げている。3月の結果はまだ出ていないが、それなりの人数に乗っていただけたと考えている。6月からのスタートで周知不足もあったが、その中でも若干目標値より下回る結果となった。

《質疑・意見等》

なし

○大糸線プロモーション事業（期成同盟会）〔説明：事務局（大町市）〕 … 資料2

①大糸線特設サイト（7/19 開設）

- ・訪問者数（3/5 時点）は 22,061 人（96 人/日）
- ・ユーザー地域は東京が 39%と最も多く、首都圏・関西圏からのアクセスが多い。また、大糸線を目的とした自然検索が多い状況。
- ・平均滞在時間や直帰率から、訪問者の満足度は比較的高かったのではと思われる。
- ・一定の訪問者はあったものの、通常時は 20～30 人に留まっており、周知不足だと感じる。

②謎解きイベント（7/26～10/31）

- ・参加者数は 975 人。
- ・イベント終了後に参加者アンケートを実施。満足度は非常に高い一方で、問題が難しい、時間的に下車する余裕がなかった、往復 6 時間以上は無理がある等のご意見をいただいております、次回イベントの参考にしたい。
- ・大糸線のいいところでは 509 件の回答をいただき、圧倒的に「車窓・景色」が多い状況。

③着地型旅行商品（9/10～）

- ・2 企画 7 コースを造成。
- ・販売実績は、現時点でなし。
- ・実績なしはやはり問題と捉えている。大糸線を利用していただく工夫やインバウンド需要を含む PR についても強化したい。

④PR 施策

《質疑・意見等》

新潟県：（旅行商品の）実績ゼロについて、PR が足りなかったのか、もしくは商品そのもののなのか分析していれば聞かせていただきたい。

事務局：大糸線と連携が可能な二次交通手段を組み合わせることとした設計であり、安曇野・白馬・小谷を到着地として、そこまで大糸線に乗ってきていただく前提の企画としている。分析までできていないが、内容にも問題があるだろうし料金的な問題もあるかもしれない。いずれにしてもこの方法では続けられない。たとえ一区間でも大糸線に乗ってもらう工夫が必要だと考えている。

新潟県：特設サイトにアクセスした人しか旅行商品が分からないという状況も課題。できるだけ露出を増やすような形で行うのも一つの工夫だと思う。そういったことも踏まえ来年度に繋げていただきたい。

長野県（観光誘客課）：着地型旅行商品に関しては、昨年、関西の旅行会社へ沿線市町村の担当者とともに 5 社ほどヘセールスを行った。旅行会社からは糸魚川をゲートにした旅行商品を造る場合、商品のタイムラインを合わせるために接続時間等を考えると「はくたか」の 2 便しかツアー造成に使えないとの話があり、ここを各社取り合って座席が取れない現状と、サンダーバードも座席確保が困難で物理的な難しさがある様子。

また、大糸線の活用に関しては短い区間だけ乗っていただく「ちょい乗り」のような方法は考えられるが、ツアー参加者の平均年齢が 65 歳以上ということ踏まえるとなかなか難しいとの話を伺った。

このエリアの魅力・コンテンツの魅力自体は旅行会社も非常に理解をしているが、大糸線をどのようにツアーに組み込むかという部分の難易度が高いようだ。

今回の着地型旅行商品は、大糸線に乗って来た方の着地というところで宿泊場所を含めたタクシープランを組んだが、宿泊施設のオフィシャルサイトにリンクを貼ってもらうようなどころまでセールスができないままスタートせざるを得なかったところに、一番の要因があると感じている。

部会長：年度途中から動き出したこともあり、周知やセールスが不足した部分はある。その辺も踏まえ来年度どのように取り組むか検討が必要。

このあと、令和 7 年度事業も議題としているため、合わせてご意見等を伺いたい。

○大糸線バス増便事業（活性化協議会）〔説明：ＪＲ西金沢支社〕 … 資料３

第７回振興部会では、６～１０月の状況を共有させていただいた。今回２月末までの累計値と、アンケートでは主に１２月のダイヤ・ルートの変更を踏まえ、冬のニーズがどのようなものであるのかに焦点を当てまとめている。一方で１２月はインバウンド利用の調査に苦戦し集計できなかったものもあると思うが、調査員の対応の仕方も含め軌道修正し、１～２月のデータを中心に分析を行っている。（アンケートについて、外国人はヒアリングの難しさや単発利用が多いこと等から、ある程度除外している。）

〔補足〕

- ・現時点において、大量輸送という観点で鉄道特性を発揮できるというまでの利用には至っていない状況であることは、共有していただきたい。
- ・我々としては、持続可能な路線としての方策を一定期間内に取りまとめる、その過程の取組みを今まさに実施していると受け止め、引き続き敦賀延伸を契機とした利用促進・利便性向上策を地域の皆様と一緒に取り組んでいければと思う。
- ・本日の振り返りにより、様々な取組みをもってしても厳しい状況であることは共通認識がとれたと思う。次年度以降については、本格的な取組みと並行してより一層議論を加速し、この地域の未来に資する交通の実現に向けたご支援とご協力をお願いしたい。

部会長：増便バスも年度途中からのスタートであり、ＰＲ不足が否めない状況だと思う。ある程度利用者の傾向やニーズが見えてきたため、どのようにＰＲを図っていくか検討が必要。

（２）令和７年度「利用促進・利便性向上策」の取組みについて

○大糸線プロモーション事業（期成同盟会）〔説明：事務局（大町市）〕 … 資料４

- ・６年度事業の成果では、事業による一昨年の乗車人数を大幅に更新し、大糸線の認知度や定着化に一定の効果があったものと思う。
- ・鉄道特性を発揮するまでの利用には至っていないが、短期間で乗車数の増加という結果がある中、少しずつでも増えていく姿が大事。
- ・７年度は、６年度事業を踏まえ継続実施し、さらに大糸線の周知と定着化を図っていく。
- ・利用促進のプロモーション事業と併せ、利便性向上策としてバス増便事業も継続実施を予定。

○大糸線バス増便事業（活性化協議会）〔説明：事務局（糸魚川市）〕 … 資料５

- ・資料は、大糸線活性化協議会の幹事会において、現時点で整理している内容。
- ・７年度は、今年度のアンケートの結果も踏まえ一部内容を変更の上、継続実施する方向。次年度のアンケート調査については英語表記の調査用紙も準備し、インバウンドも含む精度の高い回答を得られるように進める予定。
- ・バス増便事業は４月からの運行を予定しているため、後日、速やかに書面により総会を開催させていただく。

部会長：来月からは大阪・関西万博が始まる。糸魚川市の取組みしか紹介できないが、万博に関連してＰＲなどの取組みについて説明させていただく。

糸魚川市（商工観光課）：糸魚川市では、新潟県の催事と併せて万博でＰＲ活動をしたいと考えている。催事は６月に食、７月に物産という内容で行う予定。両月とも５～６日間行う。

新潟県の石として「翡翠」が一昨年に認定されているが、万博の中心部にある「静けさの森」に２トンと４トンの翡翠２石が設置され、糸魚川産としてＰＲさせていただく。また、一般の方は入れないが、万博会場にある迎賓館にも翡翠を板状にしたものが４石設置され、世界各国の要人に対してＰＲが図れるのではと思っている。

糸魚川市にこのような翡翠があること、翡翠だけでなく様々な鉱物があること、海岸で拾えることなどＰＲしていきたい。様々な手段を考えているが、糸魚川市ピンポイントではなく、新幹線を活用していただき上越エリアや糸魚川駅で降りれば大糸線があることもＰＲしていきたいと考えている。

また、市内観光業者へ相談しているが、やはり着地型観光を造りＰＲしていきたいということで、現

在、検討を進めている。万博期間中だからというのではなく、万博が終わった後も続く話だと思う。
長野県(観光誘客課)：長野県においても8月下旬に自治体催事で出展することになっており、長野県の清涼感あふれる体験ができるようなブースを予定している。

大糸線のPRを含め、特に敦賀経由の北陸新幹線での来訪というところのプロモーションを強化し、引き続き取り組む方向で動いている。

《質疑・意見等》

池田町：3月議会では、プロモーション事業についても質問があった。負担金50万円に関しては予算措置される方向であるが、どうしても池田町は沿線という意識が薄く、なぜ駅のある町村と駅のない町村が一律同額なのかと。いますぐ減額という話ではないが、多少でも差をつけることなど検討をしていただきたい。

池田町では、信濃松川駅を利用した通勤・通学や観光利用があるが、二次交通が少ない中で一番重要視しているのは篠ノ井線の明科駅といった事情もあり、ここにかなり力を入れている状況。このような事情も踏まえた上でご検討いただきたい。

小谷村：万博も含め海外の方が日本へ来ているが、どのようにその方たちへPRしていくかというところで、万博でのPRには期待している。万博に来たついでに日本を回るのであれば、ここに来ればこういったことがあるというようなPRが大事。着地型旅行商品は残念ながら利用者はなかったが、事務局に任せるだけではなく、我々も知恵を絞り情報共有しなければならない。皆さんで作り上げていけば良いと思う。

部会長：外国人のお客様にも伝わるプロモーションの内容・方法等を検討し、集中的に取り組んでいく必要があると考えている。

J R西：弊社も関西万博に関しては成功に向けて一定のコミットメントをさせていただいており、プラスワントリップという形で北陸・信越の方へお越しいただけるようなPRをさせていただければと思う。

増便バスも元々1年ということで進めさせていただいたが、2年目についても精一杯取り組んでいきたいと考えていますので、こういったツールを使いながらお客様をご当地へお越しいただけるよう、皆様とともに取り組ませていただければと思う。

部会長：プラスワントリップということで、北陸エリアの方への誘客が非常に重要になる。金沢支社として企画を考えられていると思うが、大糸線エリアもぜひ組み込んでいただきたい。

長野県：増便バスの状況報告をいただいたが、実績をもってしても鉄道特性が発揮できていないという大変厳しい結果を共有された。乗る環境づくりやきっかけづくりは来年度の実行案で進めていくと思うが、それを実際に乗ってもらう、使ってもらうことをしっかりとやらなければならない。

これは交通事業者や我々行政だけでやってもダメであり、やはり沿線の民間の方や地元住民など一丸となって進めなければならないと思う。県の予算を議論する中でも、地元の本気度というか、行政だけでなく地域でどれだけ真面目に取り組んでいるのかと。地域が本気であるならば県も本気で対応する。

今回、来年度に向け議論し、一生懸命取り組もうと機運が高まったため、ぜひこのメンバーだけでなく地域に持ち帰っていただいて、民間の方や住民一人一人にとって大事な一年になると思うため、一緒に取り組めるようお願いしたい。

■その他

事務局より：本日の振興部会を踏まえ、同盟会総会へ提案をする。

総会の時期は例年5月中旬であるが、少しでも早く取り組めるよう4月を予定。

■閉会（小谷村 太田副部会長）

皆で取り組んでいくことが改めて確認できた。

小谷村ごとで恐縮だが、特急あずさが白馬止まりになってしまうことも含め、大糸線の活性化・利用促進は課題である。皆様のお力もお借りしながら、より良い方向に進めていきたい。